

NEWS RELEASE

令和8年3月27日
独立行政法人日本スポーツ振興センター
広報室

バーチャルスポーツフォーラムプラス、ローザンヌで開催
スポーツの未来を切り拓く国際的イノベーションの結節点に



独立行政法人日本スポーツ振興センター（JSC：JAPAN SPORT COUNCIL）とワールドローイングは、2026年3月17日、スイス・ローザンヌのオリンピックミュージアムにおいて「バーチャルスポーツフォーラムプラス」を共催しました。本フォーラムには、国際統括団体、国際競技連盟、ハイパフォーマンス分野のリーダー、政府機関、産業界、学術界、テクノロジー関連分野など、45を超える団体から140名以上の代表者が参加しました。参加者は、急速に進化するバーチャルスポーツおよびeスポーツの現状を共有するとともに、スポーツにおける新たな地平の共創に向けて活発な議論を行いました。



JSCが設置するハイパフォーマンススポーツセンター（HSPC）は2023年11月、ワールドローイングと連携し、バーチャルスポーツに関する国際共同研究を推進するための協定覚書を締結しました。さらに2024年度からは「バーチャルスポーツフォーラム」を開催し、ワールドローイングの協力を得て、国際オリンピック委員会（IOC）、国際競技連盟、eスポーツ関連団体などとともに、国際的な潮流や将来展望について議論を重ねてきました。

ローザンヌでの本年開催は、国際スポーツ界においてバーチャルスポーツ等の取組が検討段階から具体化フェーズへの確かな前進を示しており、IOC主導の取組への期待が高まる一方で、「オリンピックEスポーツゲームズ」をめぐる多様な論点も浮き彫りとなっており、国際的な対話の深化と方向性の整理が一層重要になっています。

開会挨拶では、オリンピック・キャピタルであるローザンヌの特性と、世界のスポーツ発展を牽引する情報発信拠点としての役割が強調されました。ローザンヌ・オリンピック・キャピタル財団ディレクターのセバスチャン・グリースマー氏の歓迎に続き、ワールドローイング会長のジャン＝クリストフ・ロラン氏は、JSCとの「ハイパフォーマンスからライフパフォーマンスへ」というコンセプトの下での協働に謝意を表しました。さらに本フォーラムがスポーツとイノベーションを結びつける国際的な結節点へと発展している点に触れ、バーチャルスポーツが世界規模でウェルビーイングとインクルージョンを促進していくうえで重要な役割を担うことを強調しました。



セバスチャン・グリースマー氏



ジャン＝クリストフ・ロラン氏

IOC基調講演：「eスポーツ医・科学の観点から見るeスポーツの可能性」

IOCメディカル&サイエンティフィック・ディレクターのジェーン・ソントン氏が「eスポーツ医・科学の観点から見るeスポーツの可能性」をテーマに基調講演を行いました。パフォーマンスや参加機会の観点に加えて、アスリートの健康とウェルビーイング、さらには包括的なケアの重要性が、全体を通じた中心的テーマとして強調されました。また、IOCが推進するセーフガーディング、傷害予防、メンタルヘルス支援、クリーンスポーツの取組は、従来の競技だけではなく、eスポーツやバーチャルスポーツ分野においても、その重要性は一層高まっていることが説明されました。



ジェーン・ソントン氏

国際競技連盟の事例紹介

UCI（国際自転車競技連合）

- ケビン・マキューイッシュ氏（オリンピック・メジャーイベント統括）：
サイクリングeスポーツのプラットフォーム革新、競技フォーマット、グローバル展開

ワールドローイング

- フィリップ・リュビッチ氏（理事、インドアローイング委員会委員長）、ジュリエット・デュシュマン氏（インドアローイングマネジャー）：
進化するインドア／バーチャルローイングの新展開と中長期戦略

ワールドトライアスロン

- ジョン・ワイアット氏（事務総長）、クリス・ジェメル氏（商業・マーケティング責任者）：
実空間と仮想空間の要素を融合した「Eワールドトライアスロン選手権」の公式世界選手権化

FIBA（国際バスケットボール連盟）

- フランク・レンダーズ氏（メディア&マーケティングサービス事務局長）：
eFIBAの国際展開：NBA2Kを基盤とした競技成長と参加国の拡大



ケビン・マキューイッシュ氏



ジュリエット・デュシュマン氏



フィリップ・リュビッチ氏



クリス・ジェメル氏



フランク・レンダーズ氏

諸外国の事例紹介：ハイパフォーマンスからライフパフォーマンスへ

登壇者：

- ◆ 久木留 毅（JSC理事、ハイパフォーマンススポーツセンター長）
- ◆ チュン・ウェイ・スー氏（シンガポール・スポーツ、ハイパフォーマンススポーツインスティテュート（HPSI）ディレクター）
- ◆ エミリー・ローズモンド氏（クイーンズランド工科大学（QUT）スポーツディレクター／モデレーター）



久木留 毅



チュン・ウェイ・スー氏



エミリー・ローズモンド氏

オーストラリア、シンガポール、日本の代表は、バーチャルスポーツを各国のシステムにどのように統合していくかについて意見を交わし、スポーツサイエンスやテクノロジーへの投資、さらには分野横断の連携が、エリートスポーツの成果をより広く地域社会のスポーツ参加へとつなげる新たな道筋を生み出していることを共有しました。

パネル：ゲーム技術およびデジタル環境のフィジカルスポーツへの適用

登壇者：

- ◆ マシュー・スミスソン氏（MyWhoosh eスポーツ&ゲーム運営ディレクター）
- ◆ アレックス・ダン氏（Concept2 マネージングディレクター）
- ◆ ジェラルド・リー氏（Refract Technologies COO）
- ◆ フィリップ・リュビッチ氏（ワールドローイング理事、インドアローイング委員会委員長／モデレーター）



パネルでは、ゲームやデジタル環境がフィジカルスポーツにどのように応用されているかを検討するとともに、競技ゲーム文化とアスリートのトレーニング・パフォーマンスとの融合、さらにバーチャルな形式を通じて新たな、特に若年層の参加者層にリーチできる機会の拡大について議論が行われました。

事例紹介：オールジャパン体制によるバーチャルスポーツ・eスポーツ推進

登壇者：

- ◆ 石原 靖士氏（日本eスポーツ協会 公共委員会委員長）
- ◆ 若林 健太郎氏（東京都スポーツ推進本部国際スポーツ事業部国際連携担当課長）
- ◆ 坂田 博史（JSC 国際情報戦略部主幹、HPSCバーチャルスポーツ研究室長／モデレーター）



石原 靖士氏



若林 健太郎氏



坂田 博史

日本がバーチャルスポーツおよびeスポーツの発展に向けて進めているマルチステークホルダー型の取組を紹介し、これらの新たな分野が日本のスポーツ政策における新たなフロンティアであることを強調しました。また、オールジャパンでの統一的な戦略が実質的な価値を生み、前向きな変化を促していることも示されました。こうした取組は、バーチャルスポーツやeスポーツが国のスポーツ政策においてますます重要性を増していること、そして東京2020大会のレガシーを拡張する役割を果たしていることを示しました。

パネル：コミュニティ連携によるバーチャルスポーツの社会的インパクト創出～デジタルスポーツによる社会的インパクト～

登壇者：

- ◆ ヴァンサン・ガイヤール氏（ワールドローイング事務総長）
- ◆ ジェイ・リー氏（ワールドテコンドー事務次長）
- ◆ ファンタ・ディアロ氏（ダカール2026 YOG組織委員会エンゲージメントディレクター）
- ◆ 山田 悦子（JSC 国際情報戦略部事業企画推進課主任専門職／モデレーター）



パリ2024インパクト&レガシー戦略評価監督委員会委員である山田より、スポーツを通じてどのように社会的インパクトを創出し得るかについて、具体的な事例や課題の紹介がなされました。これを受けて、バーチャルスポーツのエコシステムが、世界中でスポーツへのアクセス拡大、デジタルリテラシーの向上、そしてコミュニティエンゲージメントの強化にどのように貢献できるかが探求されました。さらに、バーチャルスポーツの最大の可能性は、エリート競技にあるのではなく、すべての人にスポーツへの参加機会を広げることにあるのではないかと、という見解が重要な論点として示されました。

「ローザンヌ宣言」発表

ジャン＝クリストフ・ロラン氏（ワールドローイング会長）、芦立訓（JSC理事長）が、バーチャルスポーツの発展に向けた持続可能かつ国際調和的な行動を掲げる「ローザンヌ宣言」を発表しました。本宣言は、ワールドローイングおよびJSCが、バーチャルスポーツの未来を形づくり、その発展を促進するとともに、その健全性を守っていくことへの強いコミットメントを示すものです。



閉会・今後の展望

IOC委員のン・セル・ミアン氏は、バーチャルスポーツの国際的な重要性が一段と高まっていることに加え、JSCとワールドローイングが推進するハイパフォーマンスからライフパフォーマンスへと視点を広げるコンセプトが果たす社会的役割の大きさを重要な論点とし位置づけました。

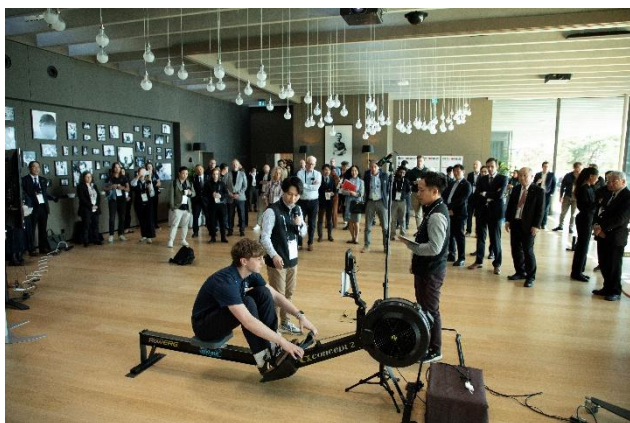


ン・セル・ミアン氏

参加者は、イノベーション、インクルージョン（包摂）、そしてコラボレーション（協働）を推進する重要な領域であることを改めて認識しました。また、JSCとワールドローイングは、今後も両者の協働を一層深化させ、より高い次元へ発展させていくことを確認しました。



また、別会場では JSC/HPSC のポスター発表を行うとともに、東京2020大会のレガシー推進やパートナーショーケースとして、オールジャパンでの取組を積極的に発信しました。これらの活動を通じて、新たなネットワークの構築・強化にもつなげることができました。



パートナーショーケース



JSC/HPSC のポスター発表会場

コメント

芦立 訓（独立行政法人日本スポーツ振興センター 理事長）

「バーチャルスポーツフォーラムを2年連続で開催し、東京2020大会から5年という節目の年に、オールジャパンで積み重ねてきた成果を、ここローザンヌにおいて「フォーラムプラス」へと発展させることができ、大変嬉しく思います。世界のスポーツリーダーが集結したことで、バーチャルスポーツの持つ大きな可能性が改めて確認され、共有知も一段と深化しました。今後は、この機運を国際的な連携枠組の拡大へとつなげ、ハイパフォーマンス領域で培われた知見をライフパフォーマンスの分野へ幅広く応用し、地球規模の課題解決に貢献してまいります。そして、ワールドローイングとともに、国際戦略パートナーシップを一層強化してまいります。」

ジャン＝クリストフ・ロラン（ワールドローイング会長）

「バーチャルスポーツフォーラムプラスは、バーチャルスポーツの未来を切り拓く重要な節目です。ワールドローイングは東京2020大会のレガシーを基盤に、JSCとの連携協定のもと、スポーツイノベーションを社会的価値へ結びつける取組を推進してきました。とりわけ、「ハイパフォーマンスからライフパフォーマンスへ」という共通コンセプトのもと、誰もが参加しやすい新たな大会レガシーモデルを創出する国際プロジェクトが既に動き始めています。また、日本から官民を代表する力強い代表団を迎えられたことは大きな栄誉であり、その参加はオールジャパン体制の強い意志と確固たるコミットメントを示すものです。本フォーラムを通じ、バーチャルスポーツが信頼性・包摂性・持続可能性を備えて発展していくための基盤が強化されたと確信しています。ワールドローイングとJSCは、国際社会と協力しながら、次のステップに向けた革新的な取組をさらに加速していきたいと考えています。」

備考：国際的な注目

本フォーラムは、IOCやワールドローイングをはじめ、主要な国際スポーツメディアでも積極的に取り上げられ、国際的にも高い関心を集めました。IOCの公式ホームページで紹介されたほか、ワールドローイングの特集記事や、国際的なスポーツ専門メディアInside the Gamesによる報道を通じ、本フォーラムの意義と影響が広く発信されています。

- IOC

Olympic Highlights 21/3/2026

<https://www.olympics.com/ioc/olympic-highlights>

- ワールドローイング

World Rowing and Japan Sport Council Convene Global Leaders at Virtual Sports Forum Plus in Lausanne

<https://worldrowing.com/2026/03/18/world-rowing-and-japan-sport-council-convene-global-leaders-at-virtual-sports-forum-plus-in-lausanne/>

- Inside the Games

World Rowing and Japan lead virtual sport push

<https://www.insidethegames.biz/articles/world-rowing-and-japan-lead-virtual-sport-ush>